

まぬけぬま 作 川村祥太

【登場人物】

男……国の『沼』対処係を称する青年。『沼』について調査をしている。

女……国の『沼』対処係を称する女性。『沼』について調査をしている。

久松俊夫……無職。77歳。15年前、自宅にて『沼』にハマって以降、ハマったまま自宅で生活。

坂下麗……久松さんのホームヘルパー。33歳。一人娘（澤）がいる。シングルマザー。

坂下滯……高校2年生。17歳。城崎書店でバイト行っている。

城崎美央……本屋店主。36歳。未婚。18歳から住むナガシマにて、書店を開いている。

植尾田……俳優。37歳。既婚。東京で18年、俳優として活動し、現在は舞台やドラマの脇役として活動している。

宍戸佑太……市役所職員。45歳。未婚。  
筒井嘉智……警察官。25歳。未婚。

宍戸の上司

テレビ番組のキャスター（声のみ）

山奥、森の奥深く。薄く霧がかつていて空気が湿っている。名札をぶら下げた作業服姿の男と女が大きなリュックを背負って、草木の生い茂る足場の悪い地面をしつかりと用心深く踏みしめながら進む。男は、50代後半から60代前半くらいの青年。女は40代のおばさん。二人とも作業服に大きなリュックを背負っている。

ふと、男が立ち止まる。それに合わせて女も足を止める。二人が静止して、ジエスチャーも交え、語り出す。

男がズボンのポケットからリーダーを取り出して、凝視する。

反対のポケットからスマートフォンを取り出して、地図アプリで現在地を確認する動作。

そのリーダーとスマートフォンを横から覗き込む女性。

宍戸佑太が現れる。宍戸は、精気を失い、目もうつろで、猫背。背負っているリュックの重さに振られて、今にも倒れ込みそう。

男女は木陰に隠れて、男が上から、女が下から顔をひよっこり出して、宍戸の様子を眺めている。

宍戸、リュックを下ろし、そこから手紙を取り出す。その手紙をまじまじと見つめる。

(※宍戸は『沼』にハマってしまった。)

気が済んだのか、しばらくして手紙から目を離し、靴を脱ぐ。両靴を揃えて、右足の靴の中に手紙を置く。カバンからロープを取り出し、木の枝にかける。一連の動作は丁寧なゆつくりと、集中してなされている。手紙を置いた後の宍戸は、心拍数が上がってきたのか、動揺が体の震えに伝わっているようである。

宍戸　・・・あれ？あ、あ、・・・。

宍戸のひざ上まで沼にハマった身体は、もがけばもがくほど、下に沈んでいく。

恐怖のあまり身体をくねらせたり、バタつかせたりするが、一向に抜け出す気配がない。

男女が出て来て『沼』にハマった男性を見つめる。

宍戸は意を決したように踏み出すと・・・ズボボボボボボツ。ボボツ。何かにハマったような感覚。

宍戸　あれ・・・  
男女　・・・

すると宍戸はその先まで足が動かなくなってしまう。

沈黙、のちに男が宍戸の手をつかみ引きずり出そうとする

女 『沼』にハマったの、二回目ですよ。

宋戸 ……え？

女 でしょ？

宋戸 ……あの……助けていただけませんか？

男 国の方です……

宋戸 ……え？国？

男 はい、国の方です。国から来ました

宋戸 国の方、というのは、どちらの省庁ですか？

男 はい？

宋戸 え？

男 お話を聞かせてもらってもいいですかね？

宋戸 ……はい。

女 市役所の総務部危機管理課に所属の宋戸佑太さん。

宋戸 ……はい、え、なんで知ってるんですか？

男 はい？

宋戸 いや、だから……。

男 宋戸さん、二回目なのでご存じだと思うのですが、

こちら、『沼』なんです。宋戸さんにはこれか

ら救わせていただいた後に、一度お話を伺いた

いんです。それで大丈夫、ですよ（笑）

宋戸 ……。

男 どうされました？

宋戸 いや、別に。

男 何かおっしゃってください。

宋戸 ……死なせてほしかったです……

男 へ？

宋戸 あ、いや、ごめんなさい。

男 ……死なせてほしかった。

宋戸 ……はい。

男 どうして死のうと思われたんですか？

女、ポケットからメモを取り出し、宋戸の

言うことを書き留めはじめる。

宋戸

・・・間抜けじゃないですか・・・なんで『沼』が、なんで『沼』がこんな、しかも二回も・・・今でこそ当たり前になっていきますけど・・・なんですか、これ。あと、『沼』にハマった自分に対する目の色も変わりましたし、テレビやら週刊誌やらネットニュースやら、良くわかりませんが、そういう記者が自分の家まで駆けつけて、それも、ズーっとズーっとですよ。私、悪いことしたかなって、私、『沼』にハマっただけなのに・・・いやなんですか『沼』って。

男

・・・へー。

女 大変そうですね。

宋戸 は？

男 あの、落ち着いてからでいいんで、(ポケットから幾重にも折りたたまれたA4のチラシを取り

出して渡す) これ、来てください。

宋戸

(チラシを広げて読む)

久松俊夫が、沼にハマった状態で、観客に背を向けて、ゴンドラの唄を歌い始める

久松

♪いのち短し 恋せよ乙女

朱き唇 褪せぬ間に

熱き血潮の 冷えぬ間に

明日の月日の ないものを

一方、小学校の目の前の交番

夕方4時、下校する小学生の数は数十分前

より落ち着いていた。

筒井が交番の前で、だるそうに、かつたるそうに立って、下校する小学生を見守っている。

筒井  
・・・。

（男子小学生に自分の体型（太っている。体重二〇キロあるらしい）を弄られる。

【2】

せるパターンで。はい、余裕です。

城崎にスポットライトが当たる。

筒井  
あ？なんだよ。お前ら早く帰れよ！（小声で、

怨念を込めて）死ね死ね死ね死ね死ね。クソガキ、クソガキ、クソガキ・・・。

城崎  
城崎美央です。人と被らないことをやりたくな

るのは私の癖なんです。アタシはここ、ナガシマで敢えて新刊書店を経営しているんです。儲からないですけどね。

モブの一人が大きく一発手を叩く。  
また一方で、槇尾は映画の撮影現場にいる。  
只今撮影中。

槇尾  
・・・あ、今のイイ感じですか？はい、あ、前

の台詞にもっと被せた方がいいですか？もつと早めに、はい、わかりました。じゃあ次、被

『今日は敢えての茶系』とか『今日はピンク色』とか考えて、色縛りをやってたんです。他の園児や先生は若干白い目で見てたと思う

んですけど、母だけが『面白いじゃない！』って言うて誉めてくれたんですね。多分そういう所は母からの遺伝だと思うんです。小学生の時、ランドセルの色が皆、赤とか、たまに水色とかピンクとかだったから、一緒になるのやだな、と思って、アタシは男の子が背負う黒にしたんです。女の子で黒はアタシだけでしたね。

小中はテニス部に入っていたのですが、もつと新しいことをしてみようと思って、その時安室ちゃんが好きで、安室ちゃんの曲を皆で踊りたくなって、でも休み時間だけじゃちゃんと踊れないな、と思ったから、高校に進学した後には仲良しの先生とクラスメートに協力してもらってダンス部を立ち上げました。

アタシは、やりたいことが浮かんだらすぐ行動に移しちゃうタイプだったので、いろんな人とケンカもして、バチバチやって、折れずにやっ

て来たつもりですね。逆になんかウジウジしてる子を見ちゃうとイライラしてしちゃいますね。あんたが動かないから何事もうまくいかないんでしょ！って、今の若い子には口酸っぱくして言うてます。

今バイトしてる高校生の女の子がいて、ちーちゃんって呼んでいるんですけど、アタシの二代目みたいな(笑)

平成生まれでは珍しいしっかりした子がいるんです。

漣  
いらっしやいませ〜。

城崎の書店。

漣はレジに立ち接客、城崎はレジ後ろの

机・椅子でパソコンを叩いている。

書店に何人か、お客さんがいる。

レジに一人のお客さんがやってくる。

澤 いらつしやいませ。(三冊の本のバーコードをピ

ツとする)以上3点で3,525円です。スタンブカードはお持ちですか?お作りしましょうか?大丈夫ですか?かしこまりました。はい、3,000円お預かりします。(レジにお金を入れてお釣りを出す)お釣りが800円になります。お確かめください。ブックカバーをお付けしましょうか?かしこまりました。少々お待ちください。

城崎 (パソコンで検索した文字を見て読むように)

さんずに、右が雨かんむりに命令の令って字で、澤(ミオ)ちゃん。できる子でしょ?

澤 ありがとうございます

城崎 しかも運命的なのが、アタシも、ミオっていうんです。字は美しいに中央の央でミオなんですけど。すごくないですか?この子、神からの授け物じゃないかな、って思いましたもん(笑)

それで、同じミオだから区別をつけるために、

あつちの澤ちゃんはちつちやいから、ちーちゃんって言ってます。ややこしくてごめんなさい

(笑)

澤 お店閉めますね。

城崎 ありがとうございます。

お店の閉店作業(照明の一部消灯、店内音楽OFF、入り口施錠など)を行いながら人の会話をする。

城崎 ちーちゃん来週テストでしょ?もう帰って大丈夫だよ?

澤 そうなんですすよ〜でも、今回は勉強してるので、大丈夫です。

城崎 え、いいよ〜勉強で疲れてるでしょ?

澤 勉強で疲れること、あんまないんですよね、うん。



城崎 ふ〜ん。よくやるよね。大変じゃない？

漣 いやでも、部活やってないんで。全然です。城崎

さんには及ばないっす。

城崎 え〜そうかな〜

漣 城崎さん部活やってたじゃないですか。

城崎 そうだけどさ・・・あ、勉強見てあげようか？

漣 大丈夫です大丈夫です。

城崎 ・・・・え、彼とはどうなの？

漣 その彼が、今外で・・・（入り口側を指さす）

城崎 あ、そうかそうか。それは失礼しました。

漣 ・・・・はい。待ってるんで。

城崎 （漣が指した先を覗くような姿勢で）いい彼だね。

漣 （まんざらでもない顔で）すみません。

城崎 喧嘩とかしないの？

漣 ・・・・いや、特に。

城崎 分かった。今日はもう上がりなさい。

漣 え？いやいやだからやりますよ！

城崎 いいから！はいはい！（シツシツとはらう様に）

漣 え？（まんざらでもない顔で）・・・すみません。

お疲れ様でした。

漣、帰る。

城崎 ちーちゃんとはもう、師弟関係みたくなくなっています。もうすぐ心年くらいになるかな。

漣

一方、榎尾はテレビリポーターにインタビューをされている。（とても明るく、二枚目風を装っている）

榎尾 学生時代ですか。彼女？居ましたよ。二年前、

俺高心の時に彼女が来て、年下の彼女なんですけど・・・出会いつすか？うわ〜ちよつと照

れるな〜・・・なんだろ、彼女が高一の春？に、サッカー部の練習見学しに来てて、そんな彼女はマネージャーとして入部を希望していて、その初めての見学の後に、俺のところへ寄ってきて、『めっちゃ好きです』って言われて・・・いや、やばい、めっちゃ照れる。んで、良いよつつつて。で、付き合いました、はい。この話使えるんですか？

城崎

いや、どうでしょうね・・・『沼』。アタシはテレビ見ないですけど、ネットとか、あと人から聞いて噂程度で・・・なんでそんなことが起るんでしょね。

っていうかその当事者を顔出しして報道しますかね普通?! 『沼』にハマった子とか、『沼』の被害者の子供が指差されて苛められてるような事案が後を絶たないらしいじゃないです

か。じゃあ報道すんなよ、って。アタシはそういう、物珍しさ目当てで、デリカシーのかけらもなく人の敷地に踏み込んでいくいやらしさが嫌いなんですけど。じゃあどうするかってね・・・結局我々市井の市民ができることって、助け合って声を掛け合うことでしかないんですよ。ただやり過ごすことなんてできないと思うし、ただその人を擁護するとか、ただ批判するじゃなくて、みんな良くしていこうよ、って言うのを、アタシはいつも思っていますね。バカみたいにハマって、のんきに被害者ヅラしてるような人にもなりたくないし。あなたがハマったことでどれだけの血税がかかっているのかって話でしょ。

だからまずはフラットに、市井の人々のお話を聞いてみたいと思ひまして、はい。

じゃあ、まずは――

後ろを向いて、テレビを見る久松。

舞台上にいる人間が久松に一瞬注視する。

しばらくして麗が観客に向かって話し始める。

麗 はい、坂下麗と申します。久松俊夫さんのホーム

ヘルパーをさせていただいております。

久松さんは、22歳、だったと思います。自動車会社の事務職を長年務められまして、30歳で定年を迎えられました。その直後に奥様がくも膜下出血で倒れられて、しばらくして亡くなられたんです。それで今は一人暮らし、アパート二階、1DKの一室に住んでおられます。久松さんが『沼』にハマられた直後に市を通じて事務所が囑託さ

れて、私がホームヘルパーとして久松さんのお宅

にお邪魔して介護を行っています。久松さん息子

さんは県外に所帯を持たれていて、久松さんのために

帰ってくるのもなかなか難しいみたいで、長

男の俊介さんからご依頼されて、私が週五日程度

お邪魔しています。

久松 俊介は来ない。あいつはもう余所の人間だから。

ろくに顔も見せない。結婚もして子供も二人出

来てさ、嫁の実家の方に逃げてったんだよ。孫

の顔はね、一回も見たことが無いの。俺、死ん

だことなってるみたいなんだよ。へへっ、お

前子供が成人したらどうするんだよ。バレるだ

ろこんなもんよ。

麗 そんな久松さんが『沼』にハマったのは5年前

だそうですね。

麗、久松さんを見つめる。

久松 俺が、昼のワイドショーかなんかを見てた時だ

ね。知らん間に『沼』ん中に入っとって、気づいたら動けんようになって、その時は『沼』にハマっているとは夢にも思わなかったね。

麗 でも不思議なのが、久松さんは『沼』から全く出

たがらないんです。腕を引っ張ろうとしても『いやだ！』って言うて出ようとしません。救急車や警察を呼ぼうとしても『下嚙み切つて死ぬ！』って言うて呼ばせないようにする。それで息子さんも困られてなかなか人に伝えづらいつて悩まされて。

私が初めてホームヘルパーに来た時も『他人にバラすなつてあれほど言っただろ！』と、息子さんにひどく怒りまして。来た当初は私に対する当たりはひどかったですよ。でも今はあきらめたのかな・・・優しくはないですけど、ホント、あき

らめたつて言う感じで、ただ私の介護を受け入れてくれています。私も来たときは、『ここから出ませんか？』つて言ったりしましたけど、聞く耳を持たないので、私もそれはあきらめています。いつまでこうしてるんだらう？つて、思うことは今でも時々あります。でもこれで十分だと思ふのなら、それはそれで久松さんの生き方なのかな、と思いますね。

私ね、年を取つて、腰を悪くしてしまつて15年前ほど思うように仕事ができなくなつてしまつただけで、この久松さんの介護だけはペースを崩していませんね。

私以外に久松さんの介護をできる人いないだろうし、私もきつと、久松さんと会えなくなると心配になるので。大変ですけどね。

でもね・・・ずつとこのままというわけにはいかないの。

最近、久松さんがぼそつと言ったんです。

久松 良くも悪くもないよな。良くも悪くもない。ただ、生きてるだけだよ。

麗 え？

久松 はは、何でもねえよ。

麗 突然そんなこと言うからびつくりしました。でも、よくよく考えて、定年を迎えられて、奥様を亡くされてからの久松さんの生き方そのものなのかな・・・とは思いますがどね・・・。

久松 間抜けだよな・・・

麗 え？

久松 なんでもねえよ。

【4】

榎尾が登場する。

榎尾は待ち人に場所を尋ねる。

榎尾

あの、すみません、このあたりに、城崎書店っていう店ありますか？こつち・・・ああ、そうですね榎尾です。（握手する）どうもどうも。ああ、いや、番組じゃないです。普通に、はい、プライベートです。どうも、ありがとうございます。はい。

榎尾は足早にその待ち人のもとを立ち去る。

一方、城崎の書店。

男女が訪れている。

城崎が話し相手となり、濤が店内を切り盛りしている。

男

昨日も調査途中に、近くの山の中を探ってたら、一人『沼』にハマったところに遭遇したんですよ。

城崎 え？黒瀬山ですか？黒瀬山に登ったんですか？

男 あ、はい。

城崎 何でそこまで行ったんですか？

男 あの、こちら、『沼』を捜査するレーダーというものがあります……

すると、男がリュックのちっちゃいポケット

トからレーダーを取り出して見せる。

城崎 え？すごいんですかこれ？

男 あ、だからレーダーです。

城崎 どこで売ってるんですか、これ！

男 ……さあ……

女 まあ我々が調査を行う際にこちらを使って『沼』の出現を特定するんですね。（城崎からレーダーを取り上げる。）

城崎 ……へ～

男 ……あ、それで、そこで宍戸佑太さんという方を救出しまして——

城崎 あ～はいはいはい。

男 市役所の宍戸さんって言う方で——

### 【5】

宍戸にスポットライト。

途端に男女が宍戸のもとにじりじりと近づいていく。

全員で、宍戸の方を向き、話を聞きながら

宍戸を加えた形で円の形になる。

宍戸 宍戸佑太です。市役所職員をしています。『沼』

にハマったのは……二回、です……

男 あの、宍戸さん、ご自身を追い込む必要はないか

と思います。なので、落ち着いて、お話し下さい。

宍戸 はい・・・あの、一回目は市役所でした。窓口

で受け付けを行っていたんですが、突然動けなくなっただんですね。で、『沼』で。結局、助けを求めて、周りの職員さんに助けてもらいましたんですけど・・・その後、周りは私のことを『沼』にハマった人って知ってるから、なんだからよそよそしくなってます。自分も疑心暗鬼になって、仕事も何も手につかなくなって、そしたら今度はメディアの人が職場や家にも押しかけてきて挙げ句、市からは『これ以上仕事に支障をきたすようなら希望退職してください。』と言われて・・・

ここは市役所の会議室。

宍戸は人事課長に直々に呼ばれ、面談を受けている。

上司 三か月前に、ああいったことが宍戸さんの身に

起こってね、今日まで、どうですか？

宍戸 はい、あの、正直戸惑いましたけど、仕事に支

障はなく、事件前と変わらず通常通り、業務を行っていると――

上司 うーんそうですね。正直な方がいいともいま

すよ。

宍戸 ・・・・はあ、そうですね・・・。

上司 大丈夫？こないだ、週刊誌の人が来たじゃない？

い？

宍戸 ・・・・はい。

上司 いやまあびつくりしたしね、広報課が対応して

くれてね、追い返せたけどね、あれから難し

い？

宍戸 ・・・・難しい、というのは？

上司 業務がね、難しいかな、とずっと心配してるん

だよ。

宍戸  
・・・。

上 司  
それでね、(紙を宍戸に渡しながら) 非常に心苦しくは、あるんですが。

宍戸  
『希望退職申請書』・・・

上 司  
あの、勘違いしてほしくないのは、押し付けるつもりはないんですね。だけど、今の宍戸さんの働きぶりとか、職場の感じとか、まあ今の状況とかを鑑みてね、これ以上仕事に支障をきたすようなら――

宍戸  
支障をきたすなら辞めてしまえと。言われたんです。

自分は『沼』にハマった人っていう烙印を押されたまま、まともな仕事も持てないまま一生過ごすのか、と思うと、どんどん気落ちしていつて・・・死のうと思ってしまいました、はい、

ごめんなさい。

ここは集会室。

宍戸、筒井は『沼』経験者、麗は久松の関係者として、城崎と男女は聞き役として、間抜け『沼』出現当時やその前後の様子の話をしている。

男  
ご自身を責める必要はありませんから、うん・・・はい、ありがとうございます。どうぞお座りください。

宍戸だけ直立し、他の人は椅子に座って話を聞いていた。(椅子は黒子が準備)  
宍戸、促され着席する。

男  
じゃあ次、筒井嘉智さん、お願いします。



筒井 (起立) 筒井です。あの、『沼』にハマったの

がおとといで、ちよつと動揺？動転？してて、結構、はい、なので、あの・・・あ、あの、え、

なんだっけ・・・あゝ今日、違う昨日ゆつくり夜、昨日の夜ゆつくり、言うこと考えたんですけど、ちよつと思ひ出せないのです、なんかここで話を聞いて整理する時間になんと思うんですけど、話すの明後日でもいいですか？

沈黙。

女 え、話さないの？

筒井 あの、ダメだったら話すんですけど、ちゃんとした話を出来るのかなっていう不安があつて、あと今ちよつと吐きそうなんですけど――

城崎 え、大丈夫ですか！横になった方が――  
筒井 そこまでじゃないんですけど、まあ後々病院行こ

うかなと思つていて、それでも無理やり来たんで、はい、話は頑張つて聞こうかなと思います。

間。

女 ……話してほしいんですけど……

筒井 ……(下を向く)

男 あの、筒井さん。筒井嘉智さんは、35歳、警察官を――

筒井 年齢言うんですか？

男 あ、え？ダメでした？

筒井 別にいいですけど、急にプライバシーにかかわること言われたな、と思つて……。

男 ……え、あ、失礼しました。

筒井 ……

城崎 (強い口調で、でも座りながら) あの、今どのような体調かどうかは分かりませんが、そう

いった症状があるときは事前に伝えてください。あと、ここに来た人はみなさん、つらい経験をされているんですけど、他の方はちゃんと自分の話をされているんですね。ちゃんと話して、前に進もうとされているんですよ。宍戸さんだって自殺未遂までされてるのにここまで話しているし、坂下（麗）さんだって、久松さん、親族でもないのにしっかりと話してくださいましたよ？

そういう生半可な気持ちでおられても、こちら何もできません。

筒井 お言葉ですけど、あなたは違うじゃないですか。は？なんですか？その口の利き方は。アタシだって自分のことをオープンにしやべったつもりですよ？

筒井 え、でもハマってないですよね？  
城崎 ハマってないけど、ハマってないですけど、ち

さんと皆さんのことを分かりたいし、改善できるように手助けしたいし、そのために皆さんにちゃんとオープンに話したはずですよ？話していないのは、あなただけなんですけど。どうされるんですか？

筒井 （男女を指さし）いや、この人たちは話してないじゃないですか。

城崎 ちよつともう我慢の限界です。警察官のくせに全然正義感も誠実さも伝わってこないし、どういうつもりでここに来たんですか？

男 あの、大丈夫なので――

筒井 あの、正直自分でここに来たくて来たつもりはなくて、（男女の方を指さして）この人たちが来いって言うから来ただけなんですけど。（ビラを取り出して）これを渡されて。

城崎 みなさんそうですけど。それでも皆さん話したんですけど。え？やる気ないんですか？それじ

やあもう帰ってもらっていいですか？あなた、そんな感じだから『沼』にハマったんだと思いますよ。

男 城崎さん！やめましようつて。あの、筒井さん。とりあえず、今話せることでいいので、お話ししてもらってもいいですか？筒井さんのプライバシーにかかわることは僕からはこれ以上話しませんので、筒井さんが話されたくなければ、伏せていただいて構いません。皆さんの言いたいことは、聞いた後にしましょうか。なので、筒井さん、お願いします。（城崎に向かつて）ね？

筒井 ……まあ、はい。別にいいんですけど。

僕、ナガシマ唯一の小学校があつて、その目の前の交番で勤めているんです。金曜夕方の、小学校の放課後くらいの時に、こう（ぼーっと突っ立っている様子）小学生の下校を見張っていたんですけど、

黒子が筒井の足元にフラフラフープを置く。

筒井は左右を確認するような素振りで一歩踏み出す。

すると筒井の足が動けなくなる。

筒井 突然動けなくなって、なんだこれ？ってしばらく思っていたら、小学生の女の子三人組が近づいて来て、「筒井くん、やば、『沼』ハマってるよ」って言われて……あ、その子たち顔見知りだからため口で、筒井くんって呼んでくるんですけど、それで初めて『沼』にハマったって分かったんですね。

めっちゃ恥ずかしいし、上司にはなぜか、『沼』にハマっていたことを怒られるし、いや、ハマりたくてハマっているわけじゃないんですけど。

『沼』にハマった人って、その人に原因があるっていう世間の風潮がありますよね。すげームカつくんですけど、まあとりあえずそうであると考えたら、自分は・・・まあ警察官なんすけど、警察官をやるモチベーションが無くて、っていうか無くなってる。まあ、向いてないし。両親どちらも警察官だったんですけど、一発で警察官になれたのも全部親のコネなんすよね。もともと能力は不十分なんです。親の七光り的な？そういうので、警察官になれたので・・・まあ案の定うまく行かないっすよね。自分では分かってたんすけどね。自分の力で受かってたら、よっしゃ、頑張ろう！とか思ったと思うんですけど、せいぜい実力はないので、まあありえないミスを犯すわ、怒られるわ、それを繰り返すわで、最悪で、それでこんなクソ田舎の交番まで飛

ばされて・・・そこから、やる気が起きるわけもなく、サボるし、ミスするし、先輩に怒られるし、まあ、精神状態ボロボロっすよね・・・そんなんで、まあ、間抜け？な状態だったかもしれないですね。だから、『沼』にハマったかも・・・です。はい。

しばし沈黙。

城崎

まあ、『沼』にハマって当然ですよ・・・あなたみたいな人は。そういう、仕事とか、人生とかになめた態度を取っている人は、おのずと、間抜け『沼』にハマっていくんだと思います。

静かに席に座る筒井。

男 ああの、皆さん、それぞれ思うところはあ

れませんが、皆さんから貴重な体験談をお聞き出来て、非常に有意義な会になったと思います。

麗 あのと……ごめんなさい、結局、（男女を指して）お二人はどういう方なんですか？

城崎 国から沼について調査のために来られた方々です。『沼』を、お二人チームで調べていらっしやるんです。

麗 あの、それは国土交通省とか、そういう省庁の方でつことですか？

城崎 ……あの、正直そこらへんは私も聞いていないくって、いつかちゃんとお伺いしなきゃとは思ってたんですけど……あ、宍戸さんは何かお聞きになります？

宍戸 あ、いや、聞いたことはないですね……二回目『沼』にハマった時に助けてくださったので、なんか救急隊員のカタカナ？と一瞬思ったんですけど、そんな感じもしないし……

城崎 つていうか教えてもらえませんか？これから

イベントとかする時に、プロフィールとかもろえないとプレスリリースの時に説明しづらいし。

男 あく……

女がドスンと一歩前に出る。

女 あの、無駄な詮索はやめてもらってもいいですかね？プレス？だか何だかよく分かんないですけど、国から来ましたので。それ以上も以下もありませんから！以上！……解散！！

固まる一同。

男 ……すみません、お開きで。  
女 ……かいさんっ！！！！

【6】

男女以外の集会の参加者、各々に戸惑いつつも「失礼します」や「ありがとうございます」など口々に挨拶して部屋を出る。

麗 滯・・・今から仕事で出るから・・・滯？

滯 お母さん・・・

麗 ? どうした。

滯 どうしよう・・・

麗 ・・・

坂下麗の住むアパート。

麗、机の上に置いてある妊娠検査薬を見つ

麗と滯は親子で、このアパートに住んでいる。

けて、手に取る。

麗が帰宅すると、机で滯が突っ伏している。

麗 どうしたの、これ。

滯 どうしよう・・・

麗 ・・・病院には行ったの？

滯 (突っ伏したまま頭を振る)・・・

麗、カバンを下ろす。

麗 ・・・

帰ってきた部屋の空気が異様に静かなことをいぶかしがる。

滯 ・・・一個上の先輩とね——  
麗 言わなくていいから。

澁 ……。

麗 相手に言ったの？

澁 言った。産むって。

麗 は？もう言ったの？

澁 ーだつてー。

麗 あらー……。

麗、持っている妊娠検査薬を再び見つめる。

麗 ちよつとき、頭冷やしなさい。時間はまだあるからさ。

澁 でも、言っちゃったから。

麗 城崎さんには言ったの？

澁 ……まだ。

麗 私がついていくから、落ち着いたら話しに行こう。

澁 アタシだけで行く。

麗 は？

澁 アタシだけで説明する。

麗 ダメ、連れて行くから。

澁 ……。

麗 とりあえず、私これから久松さんのところ行って

くるから。頭冷やしてなさい。

澁 ……。

麗 冷蔵庫の中にカレーあるから、チンして食べて。

澁 ……うん。

麗、再び部屋を出る。

澁はしばらくして体を起こし、放心状態のまま部屋を出る。

## 【7】

城崎の書店。

お客さんはいない。

城崎はレジ奥作業機のパソコンで作業を行

っている。

ひどく疲れた様子。

そこに一人のお客様が現れる。

城崎が客に気付き、挨拶をする。

城崎 いらつしや・・・(固まる。黙り込む。)

榎尾 美央。

城崎 ……。

身体が硬直したまま、榎尾のもとに近づく

城崎。

榎尾に近づくと、目を合わさないようにう

つむく。

榎尾 本屋さんやってる、って、さっき知った。

城崎 ……。

榎尾 元気にしてた？

城崎 ……。

榎尾 ホント、久しぶりだね。

城崎 ……。

榎尾 え？どうした？

城崎 ……あたし育てるから。

20年前、二人がまだ高校生の頃。

榎尾 え、美央ちゃん。

城崎 匠くんが無理って言っても、あたし育てるから。

榎尾 は？

城崎 ごめん。

榎尾 うわ・・・

城崎 ごめん・・・

榎尾 あのさ、育てるの良いけどさ、黙っといてくん

ない？



城崎 ……え、なんで？

槇尾 いやだつて、俺有名になつてさ、これバレたら

さ、俳優の仕事出来なくなつちやうじゃん。

城崎 ……。

槇尾 そうだろ？

城崎 ……育てるから。とにかく育てるから。

槇尾 は？ふざけんな！勝手に決めんなよ。俺もうこ

れから電車が出るんだよ。

城崎 育てるから！匠くんが嫌つて言つても絶対育

てるから、あたしの子だから！ぜつたい育てる

から！

槇尾 ……好きにすれば。

槇尾 実家には戻つてないの？

城崎 ……は？

槇尾 いや、だから——

城崎 どういうつもりですか？

槇尾 あの時は、ごめんなさい。

城崎 ……。

槇尾 ……全部美央ちゃんに押し付けて——

槇尾の『美央ちゃん』の言葉に身震いする

城崎。

城崎 やめて、ホント気持ち悪い。

槇尾 ……。

城崎 やめて…。

槇尾 ……ごめん。ごめん。

槇尾、頭を下げる。そしてそのまま座り込  
み土下座をしようとする。

城崎 いやいやいやいやあり得ないから！

槇尾 ……は？

城崎 ……土下座とかじゃないでしょ。

榎尾、城崎に促されて再び立ち上がる。

濡が書店の入り口の前に来て、二人の存在に気付き、話に耳を傾ける。

城崎と榎尾は濡に気付かない。

榎尾 子供は元気にしてるのかな、と思って

城崎 知らない。

榎尾 知らないって何？

城崎 知らないから。

榎尾 あれだって、自分で育てるって——

城崎 だって高校生だったから。

榎尾 ……約束が違うじゃん。うわマジか！感動の対面だと思ったのに！うわー

城崎 結局あんた、東京に逃げたじゃん。

榎尾 ……逃げてはない。

城崎 とても活躍していらつしやるみたいで……私はテレビも映画も観ませんけれど。主役をさ

れているそう。

榎尾 ……あーそうだ、お前そういう女だったよね。うんうん、思い出してきた。

城崎 ……。

榎尾 分かった。もう分かった。俺が悪かったってことでもいいね。はいはい、それでいいです。はい。

僕も前向かないといけないので。映画二本決まってるので。『炎の応酬』『夏、来て帰る』この二本ね、どちらも主役なのよ、ね、そんな——

榎尾、後ろへ踏み出すと……ズボボボ

ボボボツ。ボボツ。何かにハマったような感覚。

榎尾 あっ！ああっ！……あ——！……

榎尾、もがきもがき、ズブズブズブズブ埋  
もれ、しまいには沼の中に消えていってし  
まった。

城崎  
・・・。

呆然としている城崎。  
漣、意を決して書店に入る。

漣 城崎さん。

城崎  
・・・。

漣 城崎さん？

【8】

久松の部屋。

久松はいつものようにぼーっとテレビを見  
ている。

麗 こんにちは。

麗が合鍵を開けて、久松の部屋に入る。

麗 元気ですか。

久松  
・・・。

麗 夕食食べられますか？

久松  
・・・おう。

麗の目の前に机にいくつかのタッパーに詰  
めたご飯やお総菜などを並べる。

久松 あの、ちよつとりモコン取って。

麗  
・・・。

久松・・・リモコン。

麗 あ、はいどうぞ。

麗、久松にリモコンを渡す。

久松 聞こえないから。

麗 あら、耳遠くなりましたか？

久松 馬鹿言うんじゃないよ。

久松がリモコンの音量ボタンを連打する。

キャスター（声） 特集です。現在世界的に起こって

いる「スワンプ・クライシス」。

突如、ありもしなかった『沼』が

人々の足元に発生するその不可

解現象は二〇〇三年の発生以来、

現在まで原因究明が急がれてい

ますが、未だ解析が進んでおりま

せん。

周囲を歩く人々は『沼』にハマリ、

各々、驚いたり、ひどく狼狽えたり、可笑

しくなって笑ったり、頭を抱えたり、色と

りどりのリアクションをする。

麗、テレビの画面は見ないが、明らかに音

声に耳を傾けている。

キャスター（声） この番組では、世界各国の「スワ

ンプ・クライシス」の当事者たち

に取材を試みました。そして、後

を絶たない当事者たちへの理不

尽な差別と偏見の実態に――

久松がテレビのチャンネルを変える。

バラエティ番組の賑やかな音声が流れてくる。

麗 はい、どうぞ。

久松 あんたは？

麗 へ？

久松 あんたは食べないのか？

麗 また家に帰ってから食べますから。

久松 一緒に食べればいいじゃないか。

麗 でも久松さんの分は？

久松 俺そんな食わないから。あんたも食えよ。

麗 ……いいですか？

久松 箸は台所にあるよ。

麗 ……知ってます。

久松 だから、あのー…あ、この人だよ。榎尾、田んぼの田…あ、デンさん。「榎尾田」さん。こないだ大河出てたよ。

麗 あら、そうですか。

麗、台所まで箸を取りに行く。

久松は黙って食べ始めようとする。

麗がタッパーを並べ終える。

麗 久松さん！いただきますしなきゃダメでしょ。何回言ったらわかるの！

久松 あゝはいはい、ごめんなさい。

麗 はい、いただきます。

久松 いただきます。

久松、麗、食べ始める。

久松 このね、おひたし美味しい。

麗 エライ褒めますね。

久松 美味しかったら美味しいっていうよ。

麗 鷹の爪入れたんですけど、大丈夫ですか？

久松 いい。鷹の爪が利いてるよ。

麗 よかったです。お口に合って。

二人でテレビを見ながら食事をする。

麗 いつまでこうしていられますかね。

間。

久松 命短し恋せよ乙女、って曲あるじゃない？

麗 なんてしたっけ、それ。

久松 ♪命短し恋せよ乙女

麗 はいはい、あの〜・・・黒澤明の映画。

久松 あんたよく知ってるね。『生きる』っていうの

がね、一番好きなんだよ。

麗 主人と見ましたよ。大昔に。

久松 ご主人と見たの。ほう。

麗 付き合い始めて間もなかったから、お互いの趣味

にまだ気前よく付き合ってた時代でね。主人は映

画が好きで、大学時代は映画研究会だったらしい

んですけど、中でも黒澤明にぞっこんで。それで、

娘が生まれるはるか昔ですよ。一緒にビデオを借

りて見てたんです。『生きる』は主人のベストワ

ンらしいんです。わたしはよく分からなかったけ

ど、うふふ。

久松 あゝそれはご主人と気が合うな。俺は生涯で一本の映画を選べ、って言われたら『生きる』なんだよ。

麗 そうなんですか。

久松 だからってわけじゃないけどね、最近口ずさんでるんだよ。

麗 ふくん、そうなんですか。

間。

麗、鼻歌でゴンドラの唄を奏でる。

途中で久松も加わる。

久松 ふふつ、いいだろ。

麗 うん、いいかもね。漣

久松 なつ。

麗 ・ ・ ・久松さん。

久松 なんだよ。

麗 ・ ・ ・いいえ、呼びたかっただけです。  
久松 ・ ・ ・何言うんだよ。

久松、まんざらでもない様子。

久松、再び鼻歌でゴンドラの唄を奏でる。  
今度は麗がそれに合わせる。

【9】

いつの間にか夜が訪れていた。

男女が夜道を歩いている。その背後を、穴戸と筒井がバレないように後をつけている。

このシーンは城崎書店（城崎と漣）、久松の部屋（久松と麗）と同時並行で展開されていく。

男女が立ち止まり（女が疲れた様子で男を引き留めて休憩するような様、談笑している。）、その後ろで物陰に隠れて男女の様子をうかがう宍戸と筒井。

筒井 あのカバンの中にあるはずなんですよ……。

宍戸 レーダーですか？

筒井 はい。

宍戸 あゝ……帰りませんか？

筒井 え、何ですか？

宍戸 あの二人が『沼』を出現させているんですか？

筒井 ……はい。

宍戸 え、なんでですか！それどこでわかるんですか。

筒井 勘です。

宍戸 帰りましょう。

筒井 いや、でもね……宍戸さんが2回目にハマった時、あの人たちしかいなかったんでし

よ？……これって怪しくないですか？ずっと自分たちの正体を語らないし。

宍戸 いや国の方って聞きましたけど。

女 あつつはつつはつつは……かつかつか……

男が何かを言った後に女が大爆笑する。

筒井 あんな国家公務員いますか？

城崎の書店。すでに閉店時間とはとくに過ぎて

いる。

漣と城崎は向き合って座っている。

漣 育てようと思ってました。

城崎 ……。

漣 城崎さんをマネして、しっかり産んで育てようと思

ってました。



城崎  
・・・。

漣 それが、子供のためにも、自分のためにも、周りのためにもいいと思っただから。

城崎  
・・・。

漣 城崎さんに、お子さんの話をしてもらったとき、うれしかったんです。誰にも言っていない、秘密のことを教えてくれて嬉しかったです。

城崎  
・・・ウソ、ついてました。

漣 お相手ですか？さっきの。

城崎  
・・・（黙ってうなづく）

漣 はあ・・・

漣、机に突っ伏す。

城崎、しばらくためらい、漣の頭を触る。

途端、漣が城崎の手を払う。

城崎、動けなくなる。

漣がガバッと起き上がる。

漣 下ろしたほうがいいのか・・・。

城崎  
・・・。

漣 城崎さん、どう思いますか？

城崎  
・・・今、答えてあげられない。

漣 城崎さんは、なんで育てられなかったんですか？

城崎  
・・・自分の言葉に、責任が持てなかったの。

あの時はまだ高校生だったから。

漣 それは、高校生だったからですか？高校生は高校生なりにしっかりと考えないんですか？気持ちだけで動いちゃうんですか？

漣

城崎  
・・・。

漣

漣 それで、自分の子供がお母さんがいない状態で、生きていくんですか？それでいいんですか？

漣

城崎  
ごめん。

漣 ごめんじゃないんです。私も、どうすればいいの

か分からないから。先輩に、教えてほしいんです。

城崎 ごめん、どういつてあげたらいいか分からない。

漣 ……じゃあ下ろしますね。

城崎、『下ろす』の言葉に反応する。

漣 だってそうした方がいいと思ったから。自分で考

えてそうするんです。別に、城崎さんに答えても

らえなくて、それにムカついて言っているわけじ

やありません。いや、ムカついてはいるかもしれ

ません。でもこの決断は、城崎さんみたいにその

場に流されて決めたことじゃないですから。

城崎 ……それでも、下ろさない方がいいと思う。

漣 そうですか。

城崎 下ろすの？

漣 はい。

城崎 ホントに。

漣 ……はい……うー……ん。

漣、机に突っ伏す。  
間。

城崎 怖いよね。

漣、城崎の頭を触る。

城崎 一人だもんね。

漣 ごめんなさい……やっぱ分かんない……。

城崎 一人はね、つらいよ。

漣 はい。

城崎 ちゃんとお母さんに相談した？

漣 ううん。話したけど、自分で決めようと思ってた。

城崎 もう一回話したほうがいいよ。あたしもね、ち

ゃんと相談しなかったから。だから喧嘩しちや

つてさ。未だに実家に帰れないんだよね。

澁 そうなんだ。

城崎 私みたいに一人で勝手に決めるんじゃないよ、きちんとみんなと相談するんだよ。

澁 ・ ・ ・ うん。反面教師にする。

城崎 ふふ、そうだね。

城崎、起き上がる。

澁 ・ ・ ・ とりあえず、帰ります。

城崎 ・ ・ ・ うん。

澁、椅子から立ち上がり、『沼』にハマる。

澁 あれ？

城崎 どうした？

澁 ・ ・ ・ 動けない。

城崎 うそ？

城崎、立ち上がり澁を助けようとする。  
が、踏み出した先に『沼』があり、ズボツ  
ハマってしまふ。

城崎 うわっ ・ ・ ・ あれ、アタシもだ。

澁 ・ ・ ・ 何で？

城崎 ・ ・ ・ 何でだろう？ ・ ・ ・ 『沼』？

澁 ・ ・ ・ あ。

城崎 ウソでしょ ・ ・ ・

再び、机に突つ伏す城崎。

城崎 ・ ・ ・ これ、『沼』だ。

澁 ・ ・ ・ あの。

城崎 ？

澁 私、ハマって見たかったです。

城崎 え、なんで？意味が分からない。

瀧 私のお母さんホームヘルパーなんですけど、一人、15年間抜け『沼』にハマっているおじいちゃんがいるって、聞いたことあって、そのおじいちゃんか面白い人で、全然元気に暮らしているよ、って聞いてたから。

城崎 そうか・・・

すると突然、先ほど榎尾が埋まった沼から、榎尾のものらしき両足が突き出て、浮かび上がってきた。

瀧 きやつ！！！！

城崎 ……

瀧 こ、これ……。

城崎 そうか、そうかそうか、あはははは……はっはっはっ……

瀧 ？

城崎 そうかそうか。はっはっはっはっ……いのよもう、ちーちゃんは気にしなくていいの。はははははは……

瀧 ……

久松の部屋。

久松と麗はテレビを見ながら笑いあっている。が、いつの間にか麗も『沼』にハマってしまっている。

麗 あら、もうこんな時間。

久松 もう、帰るか。

麗 はい、帰らせて（立ち上がろうとするが、立てない）……あれ？

久松 さん、どうした？  
麗 ……動けません。

久松 ……ありや。

麗 抜け出せなくなった。

久松 ……ハマったな。

麗 みたいです。

久松 俺と同じだ。

麗 ですね。

久松 間抜けだな。

麗 私、このままでもいいです。

久松 ……。

久松 警察呼ぶから、携帯貸しなさい。

麗 ……。

久松 一緒に出るんだよ。

麗 ……珍しいですね。

久松 早く！

麗 ……しばらくこのままが良いです。

久松 ……分らん奴だ。

麗 久松さんに言われたくないです。

久松 ふん、そうか。

久松 何もすることは無いよ。

麗 いつもと変わりませんから。

久松 そうか。

麗 朝になったら出ましょ。それまではこのまま二人

きりがいいです。

久松 そうか…。

麗 抜け出せたら、『生きる』見たいですね。

久松 もうやってないだろ。はるか昔の映画だぞ。

麗 DVD借りてみましょう。

久松 ……まあ、久しぶり見るのものな、いいかもな。

麗 ……ちよつと覚えたんですよ。

久松 何を。

麗 ゴンドラの唄。

久松 なんて覚える必要があるんだよ。

麗 一緒に歌いたかったんです。

久松 変な趣味だな。

麗 ふふふ・・・

♪いのち短し 恋せよ乙女

麗・久松 ♪朱き唇 褪せぬ間に

熱き血潮の 冷えぬ間に

明日の月日の ないものを

久松と麗は引き続きゴンドラの唄を歌い続けています。

男女の後をつけていた宍戸、筒井もすでに

『沼』にハマった様子。

筒井 ウソだろ？

宍戸 三回目・・・

初めて筒井と宍戸の存在に気付く男女。

女 あれ？いたの？

男 ハマっちゃいました？

筒井・宍戸 はい。

カバンからリーダーを取り出す男。

男 ホントだ・・・この地域全滅です。

筒井 ちよつと、助けてくださいよ！

男 え、なんで？

筒井 なんでって——

女 正直、あんたらがうらやましいわ。

筒井 は？

女 あたしら実は沼にハマったことないの。そっちは  
気持ちよさそうね、なんだか。

筒井 何言ってるんですか、ちよつと。

宍戸 ……。

筒井 ちよつと、宍戸さん——

宋戸 筒井さん、僕、ここで寝ても構わないかも。

筒井 は？

宋戸 もう、どうでもよくなりました。沼にハマっても死なないし。ハマったところで、ハマっただけだし。沼にハマって何が悪いんですか。

筒井 いや、でも……。

宋戸 今夜も月が丸い。

筒井 ……はあ……。

男 それじゃあ僕らはこれで

筒井 あ、ちよつと、何帰ろうとしてるんですか！

女 これから国に帰りますんで。

筒井 国？え、職場に帰るってことですか？

女 国？

筒井 はい、国。

女 『はい、国』（男に向けて）だって！あはははは。

男 それじゃ。

筒井 ちよつと！

女 なんですとか？

筒井 ホントは誰なんですか？

男 これから、（月に顔を向けて）国に、帰ります。

筒井 （月に向かつて）国？……国？

男 なんちゃって！

男女 あははははははは……。

男女、笑いあう。

すると、宋戸が笑い始める。

驚く宋戸。だが次第に筒井も笑いがこみあ

げてくる。

城崎も笑っている。澤はひきつりながらも

笑っている。

久松も麗も、歌うことをやめ、笑う。

皆が笑う。

